イラスト・さくらい ようへい

## 平安時代（８～12世紀）

歴史に名を残した武将にも偉人にも、笑って泣けるドラマがあります。日本史が苦手な人もページをめくるのを待って、少しだけおつきあいください。今回のテーマは京都の葵祭です。

# 京都の葵祭

## 貴族同士がケンカした？

みなさんは京都観光をしたことはありますか？「京都三大祭」を見学したことはありますか？

5月　賀茂別雷神社（上賀茂神社）
・賀茂御祖神社（下鴨神社）の葵祭

7月　八坂神社の祇園祭

10月　平安神宮の時代祭

いずれも京都の風物詩として有名です。

今日は、紫式部が書いた「源氏物語」の主人公である光源氏も見学した葵祭にまつわるお話です。

### いつはじまった？

まだ古墳時代だった6世紀のなかごろ。欽明天皇のとき、「暴風雨がやまないのは賀茂の神さまのたたりじゃ」と占われました。4月の吉日を選んで、猪頭をかぶった人が、鈴をかけた馬で競走をしたところ、暴風雨がおさまって、田畑が実ったので「毎年やろう」ということになったらしいのです。いまも祭りのなかで「走馬」がおこなわれるのも、この起源にもとづいているとのこと。

はじめは賀茂の神さまの怒りをしずめるための祭りだった「賀茂祭」は、平安京に遷都して、賀茂の神さまが都を守る神さまになったことで、だんだん大きな祭りになりました。やがて、「祭りといえば賀茂祭」をさすほど有名になっていきます。

15世紀の応仁の乱のせいで中止になった時期があり、江戸時代前期になって再開したときから「葵祭」と呼ばれるようになりました。祭りで使われる建物、乗り物、人にいたるまで葵の葉で飾るようになったからで、先祖代々、三つ葉葵を大事にしてきた徳川家の発案との説もあります。

### いまは、どんな祭り？

勅使（天皇の使い）を中心に古式ゆかしい衣装に身を包んだ行列が京都御所を出発します。現在では斎王（賀茂の神様に仕えた天皇の娘）の代理である斎王代のみやびな列が祭りの華とされていますが、あくまでもメインは勅使です。

賀茂川にかかる橋を渡って賀茂御祖神社（下鴨神社）に到着。勅使が祭文を読み上げ、神馬の引きまわし、東游の舞、走馬などがおこなわれたあと、賀茂川の堤を北上して賀茂別雷神社（上賀茂神社）へ。下鴨神社と同様の催しをおこないます。

### 「源氏物語」では……

「源氏物語」の「葵」の巻のなかで、きらびやかな祭りの様子だけでなく、トラブルも語られています。

斎王の列を見物しに行った、光源氏の正室である葵の上が乗った牛車と、当時の光源氏の恋人である六条御息所の乗った牛車が往来ではちあわせました。

「こっちが先じゃ！」

「こちらもゆずれん！」

といった「車争い」が起きて乱闘騒ぎになってしまいます。

結果、葵の上が勝ちました。

六条御息所は、うらみから生き霊となって葵の上を呪います。葵の上は、夕霧を産みますが亡くなってしまうのです。ああ、こわい。

楠木誠一郎
1960年生まれ、福岡県出身。日本大学法学部卒業。歴史雑誌編集者をへて、「十二階の柩」で小説デビュー。著書に「タイムスリップ探偵団」シリーズ（講談社青い鳥文庫）などがある。